

目印はプラス!

クビアカツヤカミキリの確認方法

プラス

幼虫は、樹木の外にプラス(木くずとふんが混ざったもの)を大量に排出します。基本的に棒状(かりんとう状)で、樹木の下や枝分かれした幹の上などに排出します。色は、茶色または黄褐色で、比較的固いものから簡単に崩れるものまでさまざまです。



写真提供：県環境科学国際センター

成虫の脱出孔

木の中で羽化した成虫が脱出した穴です。1本の樹木に複数の脱出孔がある場合があります。根元にプラスがある場合は、根元から1.5メートルぐらいの高さにあることが多いです。被害が進行すると、高所に移動します。



写真提供：県環境科学国際センター

幼虫や成虫の駆除

幼虫は、樹木に入り込んでいることから、排出孔に詰まったプラスを取り除き、針金を挿入して刺殺するか、または薬剤を注入して駆除してください。

成虫は、見つけ次第、踏みつぶすなどし、確実に駆除してください。

また、成虫の活動時期前後(5月～8月)に、ネット(目合4ミリメートル以下の防風ネットなど)を被害木に巻き付けることで、成虫の拡散を防止することができます。幹にぴったりと巻き付けると、成虫がネットを食い破る恐れがあるため、幹に密着させないように2周から3周程度で巻き付けてください。設置後は定期的な見回りを行ってください。



写真提供：県環境科学国際センター

発見したらご連絡を

クビアカツヤカミキリの成虫や樹体から排出されたプラスを発見した場合は、それらの写真を撮って環境課までご連絡ください。

クビアカツヤカミキリの詳細は、市ホームページまたは県環境科学国際センターホームページをご覧ください。

▶問い合わせ 同課環境政策担当 ☎ 556-9530



【市ホームページ】



【県環境科学国際センター】

特定外来生物

桜や桃が危ない!!

クビアカツヤカミキリの駆除にご協力ください

市内で特定外来生物クビアカツヤカミキリの被害が確認されています。

2012年に愛知県でこの虫による最初の被害が確認されて以降、日本各地で飛び地的に侵入し、県内でも行田市など県北部を中心に被害が広がっています。当該種は、繁殖力が強く、サクラやウメ、モモなどの樹木を食害し、樹木が枯れたり、倒木したりするなどの大きな被害をもたらしています。今後、市内への被害拡大の恐れがあることから駆除のご協力をお願いします。

「生きたまま運ぶ」「飼育する」「他の場所に放つ」ことは法律で禁止されています

胸部(クビ)が赤い



体長 25 ~ 40 mm

クビアカツヤカミキリの特徴など

原産地	中国、台湾、朝鮮半島、ベトナム
体長	体長は25～40ミリメートル(触覚は含まない)
特徴	胸部(クビ)が明赤色。体全体は光沢のある黒色。メスの触覚は体長と同程度の長さ。オスの触覚は体長よりも長い。独特の異臭を放つ。
生態	幼虫は樹木内で2～3年かけて成長し、さなぎになる。さなぎは6月中旬から8月上旬に成虫となり、幹や枝の樹皮の割れ目に産卵する。一匹のメスが1,000個近くの卵を産むことがある。成虫の寿命は野外では1カ月程度(成虫で越冬はしない)。
被害樹木	サクラ、ウメ、モモ、スモモ 他

今年の夏、あなたの家は大丈夫ですか



左から、行田ナチュラリストネットワーク橋本恭一さん、同会島田勉さん、行田さくらロータリークラブ川野健人さん

これからの時期、8月ごろにかけて、クビアカツヤカミキリ成虫の飛散期です。クビアカツヤカミキリを一匹発見したら、その木には卵が数百個以上あると思ってください。私たちは、被害の拡大を防ぐため、一日100匹以上しらみつぶしに駆除していますが、氷山の一角にすぎません。最近では、個人宅の庭でも目撃されていますが、そのほとんどが駆除せずに見過ごしているため、大量に繁殖し、被害が大きくなっています。「自分の家は大丈夫」と思い込むのが一番危険です。まずは、庭の木に「プラス」があるか必ず確認してください。早期に発見し、クビアカツヤカミキリが卵を産む前に、駆除することが喫緊の課題です。皆さんのご協力をお願いします。